



島根大学広報誌 広報しまだい

Shimadai

2015.7 vol.25



特集 ■ ひろしまフラワーフェスティバルにブース出展

島根大学からの発信



特集 ■ 古代出雲文化フォーラムⅢ in 大阪



話題ゾクゾク、興味モリモリ。

島大

検索

特集

1

ひろしまフラワーフェスティバルに 島根大学ブースを出展

約160万人の観光客が訪れる中国・四国地方最大級のイベント「ひろしまフラワーフェスティバル」。島根大学は、昨年に引き続き今年もブースを出展しました。2回目となる今年は、学生が主体となり企画・運営を実施し、島根大学の良さを伝えようと奮闘。その様子をレポートします。

大学と学生の双方にとって 実りあるイベントに

全国から人が集まるイベントで島根大学をPRし、認知度のさらなる向上を図ること、そしてOB・OGとのつながりを強化する場を作ることを目的に、今年もフラワーフェスティバルに島根大学ブースを出展しました。今年は昨年の実績を踏まえ、大学ではなく学生が主体となってイベントを企画。県外での活動を通して、学生の自主性や企画力、物事に対応する力を伸ばす良いきっかけにもなりました。

5月3日から5日までの3日間、ブースには延べ約2200人の来場があり、多くの方が展示のパネルを見たり、学生と交流したりする姿が見られました。県外の人に本学を発信し、知っていただく貴重な機会となったようです。

■島根大学の研究・地域貢献事業紹介

- ①法文学部 法経学科 毎熊 浩一准教授 ……13
- ②生物資源科学部 農林生産学科 江角 智也准教授 ……15
- COC事業レポート ……17
- しまだイトピックス ……19
- 海を越えた島大生 ……20
- キャンパスチェック ……21

■学生プレス研究会 …… 23

- サークル紹介 …… 25
新体操・器械体操部／女子バレーボール部
- 島根スサノオマジック紹介・
島根大学支援基金寄附者一覧・プレゼント …… 26

今回の主な実施内容としては、次の通りです。

(1) 4大学合同スタンプリナー

広島修道大学、広島経済大学、広島大学と合同スタンプリナーを開催。すべてのブースを巡り、スタンプを集めると、ゴールとなる4つ目の大学ブースで景品をプレゼント。



(2) 古代出雲文化展示とクイズ

島根大学のキャンパスから出土した縄文時代の道具などを題材に、出雲文化を説明するパネルを展示。来場者にはパネルに関連したクイズを用意し、楽しみながら出雲文化について知っていたら工夫をしてみました。クイズ挑戦者にはもれなくオリジナルクッキーをプレゼント。

景品はそれぞれの大学で異なるものを用意し、島根大学ではオリジナルクッキーのセットを呈しました。



(3) オリジナルムービー「1000人に聞いてみました」を制作

観光客を対象に島根大学に関する質問をし、その回答の様子を撮影。質問は「島根県と聞いて思うこと」、「島根の県庁所在地は？」など。その場で撮影したデータを集めてプロモーションビデオとしてブース内のテレビで放映しました。



(4) 学部・学科紹介

各学部の教育・研究成果の一部をパネルで展示し、学部・学科のことを知りたい人やブースに立ち寄った人にスタッフが説明。

(5) オリジナルジャム等の販売

島根大学の附属農場で収穫・加工しているジャムやお茶を販売。実践的な研究やその成果を来場者に知っていただきました。また、大学にもっと親しんでもらうために、大学のマスコットキャラクター「ビビット」



のクッキーやストラップも商品として用意しました。

(6) 「しまねっこ」の共同PR
島根県の観光キャラクター

ター「しまねっこ」がブースに来場。学生と一緒に島根県の良さをアピールしました。



島観連許諾第2742号

2015.7 vol.25
Shimadai

島根大学広報誌
広報しまだい

■〈特集1〉
ひろしまフラワーフェスティバルに
島根大学ブースを出展 1

■〈特集2〉
古代出雲文化フォーラムⅢ 5

■〈特集3〉
医学英語教育高度化プログラム 9

学生ボランティアにインタビュー

今回のフラワーフェスティバルには学生ボランティア17名が参加。来場者の方々や島大OB・OG、他大学の学生との交流、そして一からのイベント企画や運営など、多くの発見や実践的な学びがあったようです。

4大学合同スタンプラリーを企画・運営 この経験を活かし、今後につながる活動を

昨年のフラワーフェスティバルに学生スタッフとして参加した時に、広島大学のブースへ遊びに行き、学生としてブースの運営に携わっていた加藤さんと知り合いました。それがきっかけとなり、今回加藤さんにスタンプラリー参加を呼びかけてもらいました。本格的に準備が始まったのは4月ごろで、1カ月で景品の準備をしたり、他の大学のスタッフたちとやり取りをして、企画内容を詰めたりしました。

今年参加したスタッフはほとんどが1年生と2年生。初め



総合理工学部2年生
玉廣 将平さん

てイベントに参加するスタッフも多く、全体をまとめて進行するためには何が必要なのか、他の大学の人とのように連携すればいいのかなど、いろいろと勉強になりました。昨年は大学のイベントにボランティアとして参加するという意識でしたが、今年は学生が主体となつて行動できたと感じています。ただ、スタッフの役割を固定していたので、もっと積極的にたくさんの方の来場者とコミュニケーションが取れるよう、担当をローテーションすればよかったですと反省しています。

島根県でもイベントやボランティア活動に参加し、地域貢献を

もし来年もフラワーフェス



イバルへ出展するならば、ぜひ参加して今年の経験を活かしたいです。隣の広島市水道局ブースとの空きスペースを活用して企画を考えたり、新しい学生スタッフをどんどん参加させたり。学生同士のコミュニケーションを深めるためにも、もっと有意義な場にできればいいですね。そして、この活動を糧に島根県でもイベントやボランティア活動に参加し、地域の役に立てればと思います。

共同でスタンプラリーを実施した他大学スタッフ

広島の人に島根の魅力を伝える良い機会に

昨年お互いのブースでPRをし合ったときに、せっかくだから共同で何かできないかという話になり、今回のス



広島大学
総合科学部3年生
加藤 奨一さん

タンラリーを発売。広島大学が中心となり、各大学へ声をかけていきました。広島大学の大学と一緒に島根の人が島根のことを知る良い機会になったと思います。これからは学生同士の輪を大切に、広島と島根の交流を深めていきたいです。

他大学の企画を見ることは勉強になりました

広島大学からスタンプラリーのことを聞き、他の大学がどのような企画をしているのかを知りたかったの



広島経済大学
経済学部3年生
藤井 邦博さん

で、良いチャンスだと思いましたが、島根県出身なので、島根大学はなじみのある大学ですが、県外出身者が想像以上に多いことに驚きました。もし次回もこのような企画があれば、他大学のスタッフと密なコミュニケーションを取りたいです。

学生スタッフが自主性をもって運営

フラワーフェスティバルの担当になって3年目になりましたが、今までは他大学との共同イベントはありませんでしたので、ぜひ参加しよう



広島修道大学
ひろしま未来協創センター職員
ピアカウンター
中寿賀 綾さん

思いました。各大学の学生スタッフがこのイベントに自主的に励んでいる様子が見て取れ、心強く思いました。島根大学の学生さんにはおとなしいイメージを持っていましたが、挨拶に来た学生さんはとても明るくて元気でした。来年もぜひ参加して、共同の企画に島根大学とも取り組んでみたい

取り組みを広げて、島根大学をPRしたい

玉廣さんと一緒に昨年もフラワーフェスティバルに参加したので、自然と2人が中心となって会議の進行やメンバーとの調整を行いました。ボランティアスタッフの活動としてまず取り組ん



総合理工学部2年生
江草 銀河さん

だのは、参加メンバーを増やすこと。大学の生協が行う「学びと体験・出発(たびだち)講座」の受講者と呼びかけたり、友達を誘ったりして、地道にメンバーを増やしていきました。

今考えているのは、このイベントをサークルもしくは委員会化すること。少しずつ規模を拡大して、島根大学をもっと多くの人にPRできればと思います。

楽しみながら活動することができました

今回のイベントでは「100人に聞いてみました」の編集作業を行いました。企画会議の雑談でこのアイデアが出て盛り上がり、パソコンの得意な私が編



総合理工学部2年生
竹本 健太郎さん

集を担当することに。撮影では、なかなかインタビューに答えてくれる人がつかまらなかったもので、聞く方法をもう少し工夫すべきだったことが反省点ですね。

このイベントでは、みんなでアイデアを出し合って、1つのことに取り組めたのが楽しかったです。次回はいまねっことのコラボイベントを企画してみたいですね。

ブースの宣伝で 地元の人たちと交流

これまでイベントにスタッフとして参加した経験はありませんでしたが、人と話すのが好きのため、ブースの宣伝にも臆せずに取り組みました。今回は直前での参加になってしまったため、次回は企画段階から参加し、子ども向けのゲームや進路相談ブースなど、自分のアイデアも形にしてみたいです。



教育学部1年生
谷本 隆太さん

島根県出身の方の エールが支えに

広島が地元なので、来場者の方に自分が大学でしていることや島根のことを知ってもらいたいと思いい参加。お客さんの様子を見て対応することは難しかったですが、幅広い年代の人たちと交流できたことは、自分にとってプラスになりました。島根県出身の来場者の方に「がんばってね」と声をかけてもらえたことが嬉しい思い出です。



総合理工学部1年生
名越 美樹さん

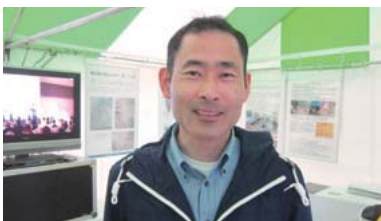
来場者の声

子どもと夫と3人で来場しました。島根の景観のあゆみや考古学のパネルに興味深かったです。島根大学とは大学時代に部活動で交流があり、良い人が多い印象を持っています。来年もあればまたブースを訪れたいと思います。



広島市/Tさま

島根大学法文学部の卒業生で、イベントの案内を見て訪れました。当時から島大生は真面目なイメージがありますが、それは今も変わらないですね。県外にも出ていく積極性は良いと思うので、ぜひ続けてほしいです。



広島市/Yさま

古代出雲文化フォーラムⅢ

「くにびき神話」と 古代出雲・伯耆の成り立ち



3月8日、出雲と古くから交流の深い大阪で、『古代出雲文化フォーラムⅢ』「くにびき神話」と古代出雲・伯耆の成り立ち」（大阪国際会議場）を島根大学の主催で開催しました。

第一回目は東京、第二回目は広島で開かれましたが、地方の大学が他の都市圏でフォーラムを主催する例は少なく、島根大学ならではの先駆的な試みだと言えるでしょう。出雲大社の大遷宮などで古代出雲文化が注目されていることもあり、今回も千人の方が参加されました。



開会のあいさつ

島根大学前学長 小林 祥泰しょうたい



島根大学は「くにびき神話」のエリアをジオパークに申請するため、「くにびきジオパークプロジェクトセンター」を開設して研究を進めています。「くにびき神話」は『出雲風土記』にしか記されていないため、ご存じない方もおられると思いますが、古代出雲文化発祥の理由を地質学的に解き明かした、非常に興味深い神話です。出雲文化が隆盛した背景には、安全で肥沃な大地を持ち、海運の便も良いという恵まれた環境がありました。背後には、たたら製鉄を可能にする豊かな森を持つ中

国山地も控えています。シンポジウムでは、この恵まれた風土を舞台とした「くにびき神話」について、島根大学の俊英がさまざまな視点からアプローチしていきます。

第一部 シンポジウム

「はじめに」

くにびきジオパーク 野村 律夫氏



1952年鳥取県生まれ。島根大学教育学部教授・島根大学くにびきジオパークプロジェクトセンター長・前島根大学汽水域研究センター長。

古代の人々が自然を理解し、豊かな恵みを求めて自然と戦っていた姿が神話となり、古代出雲の歴史文化となっていきました。今から1300年ほど前に作られた『出雲国風土記』に記された「くにびき神話」は、壮大な国土創造の物語です。ヤツカミズオミツヌノミコトという神が、



出雲の国をもっと大きくしようと思い、朝鮮半島の新羅や隠岐、北陸地方から陸地を綱で引つ張つて来て、大山や三瓶山に綱をぎとめて出雲国に縫い付け、綱は弓ヶ浜になりました。この神話には、古代の地形の変動や海を越えた交流の記憶が反映されているものと思われまます。

それでは、これから縄文・弥生時代から奈良・平安時代に及ぶ出雲・伯耆地域の日本海を舞台とした広域交流について、島根大学の先生方に登壇いただき、地質学、考古学、文献史学などさまざまな立場から、総合的に考えていきたいと思います。

「地質学的にみた

古代出雲世界の舞台

〜島根半島・ラグーン（宍道湖・中海）の形成〜

島根大学総合理工学研究科教授・島根大学ミュージアム館長 入月 俊明氏



1964年静岡県生まれ。「くにびきジオパークプロジェクト」で出雲地域の地質と古生物学的研究に携わる。

今から約3000万年前まで、日本海は存在せず、出雲はユーラシア大陸とつながっていました。たたら製鉄に不可欠な花崗岩類はこの時代の岩石です。2500万〜2000万年前から火山活動が盛んになり、出雲の地は大陸から分裂し、日本海が拡大していきました。この拡大は1500万年前頃に終了し、その後、隆起により島根半島もでき上がりました。こうした大地の動きが、地質時代の「くにびき」だと言えることができるかもしれません。

地形の変動は人類の誕生後も続き、縄文時代をピークに海面の上昇と下降が繰り返されて、宍道湖や中海などラグーンが形成されて天然の良港となりました。また、神戸川や斐伊川の堆積作用により、千年に500メートル以上という急激なペースで陸地が海側へ広がっています。出雲平野が形成されました。

「くにびき神話」は、風土記の時代の人びとの実感に近いものだったと思います。

「考古資料が物語る
古代出雲成立以前の
朝鮮半島と山陰」

島根大学法文学部准教授 平郡 達哉氏



1976年大阪市生まれ。釜山大学校考古学専任待遇講師を経て、2013年から島根大学法文学部准教授。著書に『墳墓資料からみた青銅器時代社会』。

山陰地方と海を挟んで対面する朝鮮半島。この2つの地域は先史・古代から日本海を通じた交流を続けてきました。縄文時代には孔列文土器、弥生時代には松菊里型土器や円形粘土帯土器、古墳時代には須恵器のルーツとなる陶質土器、古代出雲文化の成立時期に最も近い風土記の時代には印花文土器と、朝鮮半島南部で作られた土器が山陰地方から出土しています。これらの大部分は日常生活用のもので、縄文時代晩期から古代国家

成立前後まで、文物交流の長い蓄積があったことが分かります。こうした交流が持つ意味は、朝鮮半島↓北部九州↓山口の日本海側↓出雲・伯耆↓北陸という日本海側を通じた文化の流れの中で把握する必要がありますでしょう。今後も日本と韓国での考古学的な調査・研究成果を突き合わせ、人（渡来人）の移動も含めて、研究を進めていきたいと思います。

「東アジア世界の中の古代出雲」 『国引き神話』・新羅・渤海」

島根大学法文学部教授 おびなた 大日方 克己氏



1957年長野県生まれ。専門は日本古代史(奈良・平安時代)で、著書に『古代国家と年中行事』、『島根県の歴史』(共著)。

出雲大社に関する最古の記録は、659年に「出雲国造が造営した」という『日本書紀』の記述ですが、その後、百済が滅亡し、日本は白村江の戦いで唐と新羅に大敗します。『出雲国風土記』が編纂された733

年にも、新羅との緊張が高まり、防衛を強化する節度使が石見に置かれ、編纂責任者の出雲臣広島も召集されました。平安時代前期に地震や火山噴火が続き、危機意識が高まると新羅を調伏するため、出雲にも四天王寺が置かれました。

一方、9世紀に新羅が弱体化すると、日本と結んで新羅に対抗しようとする渤海の使節が朝鮮半島を南下して、出雲に到着するようになります。正式な外交の窓口は太宰府ですが、山陰や北陸が現実的な交流の舞台になったのです。こうした当時の東アジアの政治関係を知らないと、「国引き神話」をより深く理解することができないのではないのでしょうか。

「『出雲国風土記』と遺跡からみる広域交流」

島根大学法文学部教授 大橋 泰夫氏



1959年栃木県生まれ。島根大学法文学部教授。島根大学古代出雲プロジェクトセンター長として、古代出雲に関する調査・研究を推進。

古代に都と出雲は山陰道(正西道)で結ばれていました。『出雲国風土記』に国庁と意宇郡家の北に十字街があるという記述がありますが、今も十字路があり、私も初めて出雲を訪れた時にそこに立つて、古代の歴史に思いをはせました。山陰道は幅9メートルにも及び、渤海使もこの道を通って都へと向かっただけです。古代の道路は物流よりの通信や軍事の役割が大きく、政治的な背景が強かったようです。十字路の北は隠岐に向かう道で、出雲の独特な文様の瓦が隠岐へと伝わり、隠岐の海産物が出雲を経由して都まで運ばれていきました。

一方、長門からも出雲に特徴的な文様の瓦が出土しており、出雲と長門の有力者の間で海路を利用した深い関係があったことが読み取れます。古代には山陰道という正規のルートだけでなく、日本海を通じた遠距離間の交通や技術の伝播が盛んだったことが分かります。

まとめ

シンポジウムを通して、「くにびき神話」が環日本海における人・

もの・情報の複雑な交流の中から生まれてきたことがご理解いただけたと思います。島根大学では、地元自治体やNPOと協力して、「くにびき神話」の舞台となった島根半島、三瓶山、大山を結ぶエリアを「くにびきジオパーク」とすることを目指した活動を推進しています。この地域の自然を知ると、神話がとても良く理解できると思います。ぜひ、出雲・伯耆の地に実際に足を運んでいただき、自然と歴史と文化を肌で感じていただければと思います。



シンポジウムは、野村律夫氏(島根大学くにびきジオパークプロジェクトセンター長)と、會下和宏氏(島根大学ミュージアム准教授)のコーディネートで進行了。

第2部は、出雲大社権宮司で古代出雲文化に関する共著や論考も多い千家和比古氏と趣味は古代史という小林前学長に、島根大学出身でフリーアナウンサーの石原美和さんを進行役として鼎

談を行いました。出雲大社と島根大学にはさまざまな縁があり、近年は遷宮によって社殿から取り外された檜皮の炭をいただき、附属病院の特別個室の天井裏に使わせてもらっています。前学長

は「病院がパワースポットになった」と表現しました。続いて、出雲大社の起源についての前学長の質問に、弥生時代から境内一帯が聖域として認識されていた可能性や「くにびき神話」との関わりが千家氏から語られました。

鼎談は大阪や京都と出雲との関わりに話が進みます。古代出雲・伯耆は宍道湖や中海などラグーンで育まれてきましたが、大阪の住吉神社も難波津という水上交通の拠点となるラグーンにありました。境内から巨大な柱が出土し、古代の出雲大社は48メートルもの高層建築だったことが証明されましたが、

「海の彼方から寄り来る神様を迎えるため、ランドマークとなる高い祭祀場が各地のラグーンに立てられていたのではないかと千家氏は推測します。また、平安京の守り神、上賀茂神社、下鴨神社は出雲系の賀茂氏が建立しまし

たが、そこにも出雲大社との類似性が見られます。一つの谷筋から流れてきた川が屈曲して交わったところに森があり、そこから一本の川になって流れていく。「下鴨神社の糺の森のただすは立ち現れる」という意味です。河川が交わるところを、目に見えない霊的な存在が立ち現れる場所と捉える共通した発想が見られます」と千家氏。パワースポットの生まれる条件について、刺激的な意見が聞け

ました。最後に前学長が、今後九州と出雲の関係など、さまざまなテーマで古代出雲文化の研究を深めていくことを約束し、鼎談を終えました。



石原 美和さん
元TSKアナウンサー。



千家 和比古氏
1950年島根県出雲市生まれ。國學院大学大学院修了。共著・論考に『古代を考える出雲』『古代出雲と風土記世界』など。

次回開催予定

古代出雲文化フォーラムⅣ 「九州と古代出雲」(仮題)

● 2016年3月5日(土)

● 九州国立博物館(福岡県太宰府市)

地域と世界に貢献する グローバルな医療人を育成

国際化の中で増していく英語の重要性

21世紀を迎えて国際化が加速していく中、医療分野における英語の重要性はますます大きくなっています。最新の研究成果や医療技

術に関する情報は英語を基本言語として世界中に広まるため、それらを素早く正確に入手することはもちろん、学会や論文で自身の

研究成果を広く公表する際にも、英語力は必須のものとなってきました。さらに現場では、様々な国籍の患者や医療スタッフとの円滑なコミュニケーションをはかるために英会話能力が必要

です。医療人としての成長のため、そして活躍の場を広げていくために、英語コミュニケーション力の習得は医学部教育の重要な使命となっているのです。

医学英語教育 高度化プログラム

② 学生の 自律学習の促進 enhancing learner autonomy

- (1) eラーニング、モバイルラーニング
- (2) 英語学習支援室「eクリニック」
- (3) 多様な学習支援セミナー
- (4) Facebookによる情報提供、情報交換

の社

世界に
する
カルな
育成

大学
語教育
プログラム

の推進
international

プログラムの充実

島根大学医学部が推進する医学英語教育

島根大学医学部では、こうした背景を下に、英語コミュニケーション力と国際的視野を備えた「地

域と世界に貢献できる医療人」育成を目指し、医学英語教育高度化プログラムを推進しています。



eステーションでのeラーニングを導入した1年生基礎医学英語の講義。対面指導とeラーニングの長所を活かした先進的な授業が行われている。

「医学英語教育高度化プログラム」について伺いました

常に英語教育の質の向上を目指す

島根大学医学部 医療社会文学講座(英語) 教授 岩田 淳



医療人としての英語の必要性は「最新の情報・技術の収集」「患者さんスタッフとのコミュニケーション」だけに留まらず、「海外の文化やその価値観への理解」といった面にも及びます。世界に活躍のフィールドを広げた時だけに限らず、国際化の時代ではそうした資質が必ず必要になってきます。ですから、海外から来ている留学生と日本の学生との交流も積極的に進めています。

医学部の英語教育で特に気を配っているのは、忙しいカリキュラムをこなす学生たちに、いかにして英語との関わりを持たせ続けられるかということです。語学は継続が重要ですから、入学から卒業までしっかりとフォローできる態勢をさらに整えていきたいと思っています。



① 英語カリキュラムの高度化
enhancing English Curriculum Design

- (1) 統合カリキュラム
- (2) 一貫英語教育
- (3) eラーニングの活用
- (4) 自由選択科目群による「アドバンスト・イングリッシュスキルコース」

③ 国際交流
enhancing international exchange

- (1) 海外研修プログラム
- (2) 支援体制の整備
- (3) 留学生との交流

通称「3eプログラム」と呼ばれるこのプログラムは、
① 英語一貫教育の充実と英語教育の高度化
② 学生の自律学習の促進
③ 国際交流の推進の3つの柱からなっており、マルチメディア英語学習教室「eステーション」における授業、必修英語科目以外に学生が自由に選択できる「アドバ



医学部の英語教育を支える講師陣。(左から)John Telloyan(特別嘱託講師)、川上サマンサ(嘱託講師)、玉木祐子(外国語教育センター特別嘱託講師)。

スト・イングリッシュスキルコース」の開設、英語学習支援スペース「eクリニック」における学習支援、英語学習ポータルサイト、モバイルラーニング教材による自主学習支援、そして学部独自の海外研修の実施などにより、医学部生の英語学習を多面的に支援しています。

常に進化を続ける教育体制

島根大学医学部の英語教育を中心となって推進しているのは、着任して8年目の岩田教授。当初は医学英語教育の体系的なカリキュラムを構築することから始めました。その後、数年かけてカリキュラムの改善を図るうちにあぶり出された課題が学習支援の必要性です。この課題を解決するため、まずLL教室でのeラーニング(情報技術を用いた学習)環境の整備を徐々に進め、これが現在のeステーションへと発展。2年前にはサポートスタッフをeクリニックに配置し、いよいよ本格的な学習支援が始まりました。

現在、医学部の英語教育で重視されるのは、質の保証と学習機会の拡充です。医学科6年・看護学科4年の一貫英語教育もそのためのもので、さらに在学中にいつでも受講可能なアドバンスト・イングリッシュスキルコースも平成25年度から新設しました。医学・看護英語の基礎力とモチベーション向上や視野の拡大を目的とした海外研修も充実がはかられています。

英語や国際交流を核としたコミュニティの形成 「医学部英語学習支援室」eクリニック

eクリニックの開設は平成25年。現在、専任のスタッフが常駐するほか、「ピアサポーター」という名称で学生スタッフもその運営に携わります。

eクリニックは英語学習用書籍やパソコン、AV機器が備えられ、英語学習のリソースセンターとして、また学生の自主学習スペースとして活用できるよう設けられました。ここではスタッフによる様々なサポートが受けられるほか、少

人数の自主ゼミやセミナーなども開催されています。

また、学生・留学生・教職員に広く開放され、英語と国際交流を核としたコミュニティ的な機能も発揮しているのが特徴。岩田教授を中心に、スタッフ、ピアサポーターそれぞれが知恵を出し合うことにより、バラエティに富んだ企画が生まれ、平成26年度は延べ4千名近くの利用者数を数えました。そして本年度、eクリニックは講

義棟の2階に場所を変えてリニューアルオープンしました。スペースが広くなり、一度に利用できる人数も増加。新しい家具も設置されて、さらに過ごしやすくなったと好評です。現在、月曜日から金曜日の午前10時から午後6時30分まで利用できる態勢がとられていて、多くの学生、留学生、教職員が訪れ、英語を中心としたコミュニケーションの輪が広がっています。



ランチを楽しみながら英語で会話する「ランチョン英会話」。カジュアルな雰囲気です英語を学べる。

eクリニックを利用している学生の声

最新の医療情報はほとんど英語で発信されますし、島根という地方においても外国の方は多くいらっしゃいます。ですから医者になるために英語は必要だと感じていました。



医学科5年生 辰巳 渚さん

ここは書籍がとても充実していますし、海外へ行って先生方の話を聞くこともできます。医学部は専門科目のある学部と比べると英語に触れる機会が少ないですが、eクリニックのおかげで自分の英語力が磨かれていることを実感できます。今は海外研修に向けて、さらに力を入れて勉強しています。



毎月発行される「eクリニック・ジャーナル」。eクリニックに関する様々な情報や留学体験記等も掲載される。



救急医学講座、仁科教授によるセミナーの様子。医療をテーマにした海外ドラマを観ながら医療の現場で使われる英語を学ぶ。



eクリニックの運営に携わる学生のピアサポーター。(左から)若山和明さん、板倉大輔さん、梅木静美さん、植松奈々さん、藤井裕菜さん、鈴木陶磨さん。



eクリニックを盛り上げるスタッフ

言語と文化を語り合える場所に



eクリニック ピアサポーター
(金曜日16:30~18:30担当)
医学科3年生 若山 和明さん

私は洋画が好きで、字幕なしで映画を観たいと思ったのがきっかけで、1年生の頃からeクリニックを利用していました。医学部の学生は意識して動かないと英語を学ぶ機会が少ないですが、ここは来ただけで英語に触れられる貴重な場所です。

ピアサポーターになったのは2年生の時。この場所の有意義さをもっと多くの学生に広めて、英語に触れる機会を提供するお手伝いがしたいと思ったからです。また、私は言語と文化との関係性にも興味があるのですが、海外からの留学生も一緒になって、言語だけでなく文化的背景までも学べる場となるようにしていきたいですね。

誰もが安心して集まれる“ホーム”のように



島根大学医学部
英語学習支援室「eクリニック」
国際交流推進室
スタッフ 阿食 有里さん

eクリニックは、学生・留学生・教職員、みんなが利用できるフリースペースです。本年度から移転リニューアルして新しくなり、さらに機能的で居心地の良い空間となりました。設備や書籍も揃っていますし、定期的なセミナーも開催しています。

私も学生時代によく海外に行っていたので、より学生に近い視点からサポートやアドバイスができると思っています。ここに来ると誰もが元気になるような、安心して集まることのできるスペースを目指していますので、海外に興味がある方はどんどん足を運んでください。“eクリニックのお母さん”としてできる限り力添えしていきます。



座学と実践、教育と研究、 そして学内と学外。 それぞれを架橋する

若者の政治離れが問題視されている中、若者たちによる新たな政治参加の形態を模索する毎熊准教授。その取り組みについて語っていただきました。

法文学部
法経学科 准教授

まいぐま こういち
毎熊 浩一



NPOに興味を持ったきっかけは、阪神・淡路大震災。当時、大学院生だった自分は何もできませんでした。そんな自分への反省を込めて、自ら積極的に動こうと決意しました。

市民が地域の課題を発見し、 解決に向けて行動できる仕組みづくり

「新しい公共」という言葉をご存知だろうか。これは端的に言えば「公共の領域（＝みんなのこと）は行政だけが行うのではなく、様々な主体（市民自身、NPO、企業、団体など）が協力して担うべき」という考え方である。

毎熊准教授の研究は、まさに「新しい公共」の概念を実現するための仕組みづくりといえよう。

専門は行政学で、役所や公務員が研究対象となるのだが「大袈裟に言えば、『世直し人助け』に関

わることなら何でも」と語る。「公務とは、世直し人助けのこと。でもその公務を担っているのは決して公務員だけではなく、ボランティアやNPO、さらには町内会等

や企業も担い手です。こういった様々な人・団体のお手伝いができるれば、との思いで研究・実践してい

ます」（毎熊）

その一例が、ゼミの学生19名が作成した「島根県地域いきいき活動促進条例案」だ。NPOについて研究をしていたゼミ生が、非営利の公益的な活動を促進するための条例制定等を求めて、島根県議会に陳情した。法案の作成にあたっては、県内のNPO法人を対象としたアンケート調査や、全国の先進自治体の施策を研究。全25条、逐条解説つきの力作となった。

「『地域いきいき活動』という名称も、一般的にNPOという言葉は馴染みがなく分かりにくいという声を受け、学生自らが考えたもの。このように、若者が地域課題の発見・解決に関心を持ち、無理なく参加できる仕組みづくりをサポートしたい」（毎熊）

学から実へ、そのプロセスを楽しむ

学生教育に対する毎熊准教授のモットーは「政治行政や地域社会の抱える課題を解決すべく、学生

が単に机上で本から学ぶだけでなく、自ら動くこと」。その結果として知識はもちろん、人との出会

について考えるきっかけに。



毎熊准教授の監修のもと、学生たちが作成した「島根県地域いきいき活動促進条例案」



「飯南町まちづくり条例」の作成をサポートするなど、役所の審議会やNPOのサポート活動にも余念がない。



「ポリレンジャー」の活動は、若者たちが等身大で政治やまちづくり

注目キーワード

【 島根県民いきいき活動促進条例 】

毎熊准教授のゼミ生たちが陳情した「島根県地域いきいき活動促進条例案」がきっかけとなり、県民・NPO・事業者・行政等が連携・協力して、快適で活力のある島根を実現するために平成17年4月に施行。県民一人ひとりがいきいきと心豊かに暮らせる地域社会の実現への指針として活用されている。なお、毎熊准教授自身も、この条例に関する委員会に10年以上携わっている。

「評価するためには、まず学生自身が市政を知る必要がある。若者の政治に対する関心を高め、積極的に参政するきっかけになればと考えました」(毎熊)

学生たちは松江市についての勉強から始め、市役所へのヒアリングや、市長との公開討論会も開催。市民

と行政とが地域課題を共有するという取り組みが評価され、第8回マニフェスト大賞市民部門で最優秀賞を受賞した。こういった経験が活かされるのであろう、ポリレンジャーに限らず、毎熊ゼミからは県庁や市役所等への就職者も少なくない。

「政治やボランティアと聞くと、つい身構えてしまいがちですが、無理のない形で楽しみながら関われば良い」と語る毎熊准教授だが、最近では地方議会に関心を寄せている。「いわゆる『議会ウォッチ』です。議員の方の実際の活動内容を市民がチェックし、議会の通信簿のような形で紹介したい。そして政治や行政への関心を少しでも高めていきたいですね」(毎熊)

いや様々な経験も得ることができ、最終的にはそれらを卒論や就活に活かせるからだ。それが実現した最たる例が「ポリレンジャー」若者の手で政治をよくし隊」だ。

ポリレンジャーの代表的な事業の一つに「松江市政の通信簿」プロジェクトがある。これは松江市長が平成21年に揚げたマニフェストを検証し、4年間の市政を評価するというもの。「評価するためには、まず学生自身が市政を知る必要がある。若者の政治に対する関心を高め、積極的に参政するきっかけになればと考えました」(毎熊)



栽培。品種改良を繰り返している。

「遺伝子」「ゲノム」を活用した 高機能性ブドウの開発に 地域活性化の可能性を見出す

ブドウ、西条柿、サクラ、アズキを研究対象の中心に据えている江角准教授。今回は島根県の特産果樹であるブドウの研究について話を伺いました。

生物資源科学部
農林生産学科 准教授

えすみ ともや
江角 智也



研究者にとって、大学や学会での人との繋がりはとても大切。地域の課題を直接聞き、大学の研究でできることを考えると同時に、研究成果を知っていただく機会も大切にしています。

シャインマスカットの遺伝子発現を解析し、 「かすり症」発症のメカニズム解明に取り組み

江角准教授の専門は、果樹類の研究。中でもブドウは、島根県の農業において重要な品目であり、全国有数の生産量を誇るデラウェアをはじめ、近年では新品種であるシャインマスカットの栽培をする農家が増えている。

シャインマスカットは黄緑色の果皮が美しいブドウだが、収穫直前に果皮が褐変する「かすり症」の発生

が問題となっている。果肉には異常がなく、果実の食味にも何ら影響がないが、日本の市場は果実の見た目が重要視されるため、出荷等級を下げたためだ。そこで江角准教授は、何がブドウの体内で起こっているのかを遺伝子研究から解

決するための糸口を探すことに。「果物は成熟に向かって様々な物質を蓄積しますが、中でもポリフェノール類の蓄積は果実の付加価値

新種のブドウの開発を通して、

「農」に秘められた地域活性化の可能性を探る

江角准教授のブドウの研究におけるもう1つのテーマが「美味

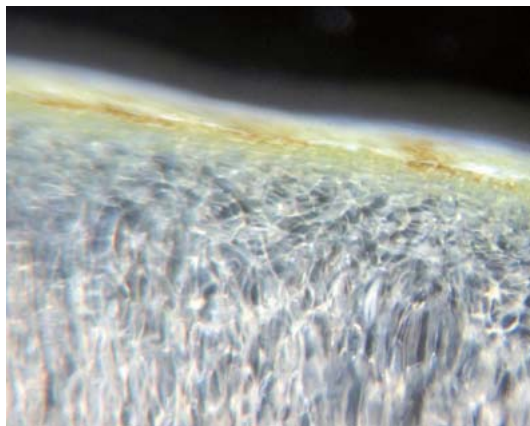
しいだけではなく、高機能性成分を含有する、島根発の新たなブ

に大きく影響します。そこでシャインマスカットでも、このポリフェノールが合成されていて、それが過度に蓄積・酸化して、茶色いそばかす症状を呈してしまうのかもしれないと仮定。ポリフェノールの合成酵素や酸化酵素の遺伝子をゲノム情報から網羅的に取得し、かすり症発生との関連性を追求しました(江角)

その結果、かすり症の発生と関連して発現量が変化する遺伝子を数個見つけたが、検証するには実際に農作物を育てる必要がある。研究を進めるにあたり、当然のことだが地域との連携は欠かせない。「新しい研究や課題に取り組み際、様々な分野の方の意見や協力が大きな助けとなる。島根県農業技術センターとの連携はもちろん、生産者や流通関係者と情報を交換しながら進めています(江角)



様々な遺伝資源を用いて、機能性成分等を高含有する系統などの育成をめざす。



「かすり症」が発生したシャインマスカット(左)と、果実断面果皮部分の顕微鏡観察(右)。高機能性成分含有のブドウの開発のため、約50品種のブドウを



注目キーワード

期待の新品種
「シャインマスカット」とは

平成15年に品種登録されたシャインマスカット。おもに8月9月に出荷され、大粒で食感が良く、高い糖度と芳醇な香り、そして何よりも種無しで皮ごと食べられるのが特徴。栽培も容易であることから、島根県内でも生産者が着実に増加しており、近年大きな注目を集めている。

ドウ品種の開発」がある。中でも注目しているのが、ポリフェノールの一種であり、癌予防や長寿遺伝子の活性化への効果が期待されている「レスベラトロール」という成分である。

現在、大学では約50品種のブドウを管理しており「その中からレスベラトロールを多く含む品種を見出し、ゲノム情報を活用して効率よく品種改良を進めていけるよう取り組んでいます。結果はまだまだ先の話になると思いますが、島大ブランドのブドウができるといいですね」(江角)

さらに、高機能性ブドウからつくるワインが、観光の需要を広げる可能性も。「例えばカリフォルニア州を代表するワインの産地・ナパバレーは、大学と産地が共同研究して発達した良い例。開発したブドウをもとに、島根でも個人経営の小さなワイナリーができたなら、中国地方を横断しながらワイナリー巡りを楽しめる。それが町おこしに繋がる」と面白いですね。」(江角)

ブドウの品種開発が、島根県における「農」を中心とした地域活性化の鍵となるかもしれない。

シジミの遺伝子型の分布判明は、新聞1面で取り上げられる程の話題に。(2015年1月16日付け・山陰中央新報)



ヤマトシジミの遺伝子の調査には、全国から多数のサンプルが集められた。写真は宍道湖のシジミ。

文部科学省「地(知)の拠点整備事業」II大学COC事業
島根大学での各プロジェクトセンターの活動について毎号紹介します

山陰の水産教育研究拠点を形成 水産資源管理プロジェクトセンター

日本海や宍道湖、中海をはじめとした豊かな漁場に恵まれた島根県にとって、水産業は重要な産業のひとつ。現在、山陰には3校の水産高校があり、漁業や増養殖、水産加工などを学んでいます。しかし水産学をより深く学ぶための受け皿となる水産海洋系のある国立大学は意外なことに一つもありません。そこで、日本海側国立大学初の水産学に関する高等教育研究組織として誕生したのが、当プロジェクトセンターです。

現在、世界中で魚介類の争奪戦が激しくなっています。なぜなら、近年急速に進行している乱獲により水産資源が減少しているうえ、世界の水産物消費量は増加を続けているからです。

そこでプロジェクトセンターでは、ヤマトシジミやサルボウガイ、ハマグリ、カキなどに関する研究に取り組み、山陰地方の特性を考慮した水産資源や増養殖技術を開発しています。中でも国内のヤマトシジミは3種類の遺伝子型に大別でき、遺伝子型の出現頻度が各地で異なることを発見。遺伝子型の違いが環境への適応性に関係する可

能性があると分析しました。これは資源増殖でシジミを移植する際に生息に適した場所を見つけるのに役立つと注目を集めています。

また、山陰水産業が将来にわたって持続的に振興するためには、目の前にある魚介藻類を獲りきる「資源収奪型漁業」から、安定的な漁業生産や漁家経営を担保する「資源培養型水産業」へと切り替えなければなりません。これからの漁師に必要なのは「育てたものを獲る」という考え方。まずは現場の漁師が資源管理の概念を理解し、作り育てる漁業に積極的に取り組んでもらうこと。そして「漁業＝儲かる」という意識を定着させるとともに、若い世代に現代の水産学を教えることで山陰地方全体の水産リテラシーを高めることをめざしています。

山陰地方の地域特性を考慮した水産資源や増養殖技術の開発と、生産者の意識改革。教育機関である大学では、人を作り育てる教育こそが、山陰水産業の21世紀化の促進に繋がります。

〈荒西太士センター長(汽水域研究センター教授)談〉

COC事業各プロジェクトセンターの動きを
トピックス形式で紹介します

▼ 地域課題の解決に向けて、大学の在り方を考える

「しまだいCOC事業報告会」を開催

平成27年3月6日、松江キャンパスを主会場に平成25年度・26年度のCOC事業報告会を開催しました。当日は、小林祥泰前学長の挨拶に続き、COC事業の全体報告、地域志向教育研究経費による成果とプロジェクトセンターによる活動報告を行いました。

長から、地域貢献人材育成入試やCOC人材育成コース、プロジェクトセンターの地域課題解決型研究、学生市民交流ハウスなど、他の大学にはみられない島根大学独自の取り組みについて説明がありました。

最後に、地域課題の解決に資する学際的な研究とシンポジウムや公開講座を通じた研究成果の地域還元を図るプロジェクトセンターの活動報告では、「国引きの地の自然と歴史・文化のネットワーク化：地域拠点の設立を目指して（くにびきジオパークプロジェクトセンター・野村センター長）」、「現場のアイデアを研究に活かすーAcademic Knowledge Networkの実現に向けて（疾病予防プロジェクトセンター・並河センター長）」、「山陰における水産教育研究拠点を形成する（水産資源管理プロジェクトセンター・荒西センター長）」の3つのプロジェクトセンターから平成26年度にお

ける活動報告がありました。報告会の様子は出雲キャンパスへも中継を行い、本学教職員、地元自治体、他大学、企業関係者及び一般市民を合わせ約100名の参加があり、各取組報告に対して活発な意見交換が行われました。

また、報告会の最後には、COC事業連携自治体を代表して、島根県・野津政策企画監並びに雲南市・熱田政策推進課長から、地域志向教育研究経費による取組成果に対して「地域と大学との協働のあり方について参考になるものであり、研究成果を活用させていただくとともに、更に大学との連携を深め地域課題の解決に向けてチャレンジをしたい」と前向きな意見をいただきました。



全体報告では、地域課題学習支援センターの高須佳奈副センター長から、「松江城下町にある江戸〜大正の地域文化資源マップ作り（ミュージアム・會下和宏准教授）」、「『邑南ラボ』を拠点とした地域協創と人材育成（教育学部・作野広和教授）」、「エゴ

報告では、平成25年度に採択した45件及び26年度に採択した33件の中から、「松江城下町にある江戸〜大正の地域文化資源マップ作り（ミュージアム・會下和宏准教授）」、「『邑南ラボ』を拠点とした地域協創と人材育成（教育学部・作野広和教授）」、「エゴ

なお、各報告（一部除く）の詳細は、利用者登録の上、本学の地域学習支援ITシステムで閲覧することができます。

本学は平成27年度も引き続き、地域の拠点としての機能を充実していくために、COC事業を推進していきます。

島大の多彩な活動を
チョイスしてお伝えします

しまだいい

トピックス



出雲キャンパス「医の庭」を竣工

学生の医学を学ぶモチベーションを向上

医学部の講義棟と実習棟を
結ぶパブリックスペースに、全
天候型キャンパスプラザ「医の
庭」を整備し、4月13日に竣
工式を行いました。

これにより、「講義」と「実
習」が密接に関わり、上級生
と下級生間の縦のつながりが
実感できる空間が創出され、
学生の医学を学ぶモチベシ
ョンの大幅向上につながるこ
とが期待されます。



▲大谷医学部長をはじめ関係者によるテープカット



北京大學牛大勇教授が 表敬訪問及び特別講演

中国と日本の 交流を深める

2月26日、北京大學歴史文化
資源研究所所長牛大勇教授が
本学を表敬訪問されました。牛
大勇教授から、まずは歴史の分
野から本学と交流を始め、様々
な学部との学際的な研究交流
に広げたいという挨拶がありま
した。

表敬訪問後は特別講演会「米
中関係の中での日中関係につい
て」が開催され、約50名の聴衆が

集まりました。普段聞くことが
できない、中国から見た日本に
ついて知ることができると大変興
味深い内容でした。

今回の表敬訪問及び特別講演
会を機に、両大学間の交流がさ
らに推進されることが期待され
ます。



伊藤史人助教チーム「Googleインパクトチャレンジ」 グランプリ受賞

社会を改善する優れた提案として選定

機械・電気電子工学領域の伊
藤史人助教が最高技術責任者
をつとめるPADMチームが、
『Googleインパクトチャレン
ジ』のグランプリを受賞しました。
伊藤助教が所属するチームで
は「みんなで作るバリアフリーマ
ップ」を提案。スマートフォンによ
り、自律的にバリアフリーデータ
を収集および共有する仕組みを
構築するものです。3月26日、
東京にてファイナルイベントが行
われ、数百件の応募の中から2
件のグランプリが選定。グラン
プリ受賞チームにはGoogleの
技術者による技術提供が行
われます。

学生さんのいきいきとした様子を見ると元気が出ます！
(島根県出雲市・50代男性)

多岐にわたる記事を読むと、大学の姿勢
が垣間見えるように感じます。
(島根県雲南市・70代女性)

フェイスブックで発信される大学からの情
報も楽しみにしています。
(兵庫県多可郡・60代男性)

やってみると、意外とできる！ 何にでも積極的に挑戦して、 視野を広げた1年間

近藤沙也果さん
(ドイツ「トリア大学」へ留学／法文学部4年生)



第二外国語でドイツ語を選じたところ、自分に合っていたようで、勉強がとても楽しくて。たまたまドイツへの留学経験がある先輩から話を伺う機会があり、「私も、自由な時間が多くある大学生のうちに留学してみたい」と思

い、交流協定校であるトリア大学に留学しました。

最初は電子辞書がないと会話が成立しませんでした。世界各国からの留学生と一緒に練習するうちに自然と話せ



留学中は、一人旅も経験。日本と違う風景に感動しました。

るようになりました。語学の上達には、やはり友達を作って色々会話をするのが一番の近道ですね。また、文化の異なる海外からの留学生との触れ合いを通して、大学生の間にもっとさまざまなことにチャレンジしたい、色々な人

に会ってみたいという思いがさらに強くなりました。

この留学経験を通して身に付けた、型にはまらない考え方や、人とのコミュニケーション能力を、今後の社会生活に活かしていきたいです。



留学生・留学体験者大集合！ 海を越えた島大生

日本の文化・習慣はもちろん、 日本人の人柄にも感動。 将来は日本に戻ってきたい

SEVESTRE Emelyneさん
(フランス「ジャン・ムーラン・リヨン第3大学」からの留学生)



子供の頃からずっと「日本で勉強したい」と思っており、日本に留学することは私の夢でした。そこでジャン・ムーラン・リヨン第3大学に入ってから日本語だけでなく、文化や歴史、文学等も勉強しました。そして昨

年9月、ついに島根大学に留学することができました。

島根大学では毎日、日本語を話したり漢字を読んだ

りしていますが、日本人の丁寧さや忍耐強さは素晴らしく、私自身もその美德を身に付けたいと思いました。先生は大変優しく、私たち留学生のことを本当に気にかけてくださるので助かります。友達もみんな優しく親切なのですが、みんなおとなしいのに少し驚きました。外国人と比べると、日本人は少しシャイですね。

また、日本で驚いたことは、店員さんの接客の丁寧さと、コンビニの多さ。フランスにはコンビニは全然ありませんので、とても便利だと思います。

もうすぐ帰国ですが、それまでに少しでも日本語が上手になりたいです。そして時間があれば、ぜひ旅行にも行ってみたい。将来はガイドなど観光関係の仕事に就き、いずれは日本に戻ってきたいと思います。そして、日本で生活してみたいです。

読者の声

広報しまだいVol.24に
寄せられた声をお届けします。

出雲キャンパスのことももっと載せて
ほしいです！
(島根県松江市・50代女性)

学生さんの実態を知ることができ、
応援したくなりました。
(島根県邑智郡・60代女性)

常をご紹介 pus スチエック! eck



春の新入生歓迎スペシャル! 篇

島根大学ではこの春、全学部・大学院を合わせて1541名が新たな学生生活をスタートさせました。そこで、新生活に胸ドキドキ!の新入生たちを突撃取材! 新入生を受け入れる上級生の奮闘ぶりも合わせてご紹介しします。

01 入学式で、新入生にインタビュー

島根大学の平成27年度入学式が4月6日、くびきメッセ(島根県松江市)で挙行されました。会場には、スーツ姿が初々しい新入生が大集合! 島大生としての第二步を踏み出しました。式では、服部学長が新入生全員の入学許可を宣言。続いて「皆さんがより良い未来を築くためには不断の努力が必要。積極的に様々なことにチャレンジし、大いに学び、グローバルな感性と柔軟な発想力をもって活躍されることを期待しています」と式辞を述べ



ました。そして新入生を代表して生物資源科学部の須谷末菜さんが、これからの大学生活への希望と誓いを述べました。

新入生のみならず、みなさんには、楽しい思い出や忘れられない体験を大学時代にたくさんしてほしいですね。

色々なことにチャレンジ!

自分が学んでみたい学部があったので入学しました。高校にはない色々なサークルがあるので大変興味があります! 何にでも挑戦して、新しい経験を積み重ねていきたいです。



大塚 良介さん
(法文学部法経学科)
1年生

めざすは「文武両道」!

島根大学は家から近いし、知り合いの先輩がいるので心強いです。大学では「文武両道」で、勉強もスポーツも楽しみたい! 教員という夢に向かって、大学生活を満喫したいです。



高橋 徹さん
(教育学部
学校教育課程1類)
1年生

勉強も部活動も充実させたい!

地域医療を促進している島根大学で、患者さんに寄り添う「総合診療医」を目指したいです。部活動は文化部をひとつと、体力をつけたいので運動部にも入りたいです。



古井 心子さん
(医学部医学科)
1年生

将来の夢がいっぱい!

全国でも珍しい総合理工学部に入学しました。物理を勉強するのですが、早く研究をしてみたい! 将来は物理の先生もいしいし、研究職にも憧れますね! しっかり考えます!



村上 成美さん
(総合理工学部
物質科学科)
1年生

理想の学部に入学できた!

自分のやりたいことができるなと思ったのが、私が入学した農林生産学科です。サークル活動は運動系がいいかな。将来については大学で勉強しながら見つけていきたいです。



西川 実華子さん
(生物資源科学部
農林生産学科)
1年生

新入生 突撃 インタビュー!

入学式の会場で
新入生に
聞きました!

島大生の日 Cam キャンパ Ch

02 新入生を全力でおもてなし！先輩たちが「新歓イベント」

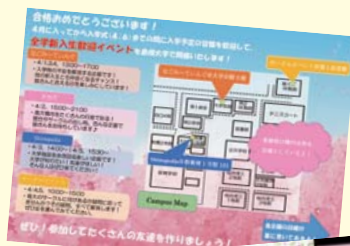
4月1日(水)～5日(日)まで松江キャンパスで行われた「全学新生歓迎イベント」。その実行委員長を務めたのが本田さんです。

そもそも、全学新生歓迎イベント委員会とは、日頃は別々に活動している3つの団体(キャンゼミ・学生会・学推会)のメンバーで構成さ

れており、実行委員長は3団体を取らまとめなければなりません。

「昨年の11月初め頃から半年かけて準備を進めてきましたが、毎回の会議資料の作成や司会進行を通して人に物事を依頼することの難しさを実感した」と言います。「委員長とはいえ、自分より年上の先輩にお願い事をするのは遠慮もあるし、最初は難しかった。でも交流を繰り返すことで、言わばきちはきちんと伝えられるようになりました」(本田)。

さて、イベント当日。「なごみ〜ていんぐ」春燈祭「サークルイベント」[Shimapedia(シムペディア)]の4つのイベントが行われ、多くの新入



ちらしも自分たちの手作り。



頑張った人
本田 凜太郎さん(総合理工学部2年生)

新入生のみならず、
大学生生活を楽しく
過ごすためのイベント

生が、在学生の先輩と積極的交流する様子が
見られました。

本田さんはイベントの進行状況を把握するために、会場内をあちこち歩き回りましたが、新入生が楽しそうにしている姿や「また来年も来るね」と声をかけてくれて、とてもうれしかったと話します。「やはり企画を考えている時が一番楽しい。今回は春

燈祭に、新しく体を動かす企画を提案することができました。参加している人の笑顔を見るのは、やはりうれしいですね」(本田)。

チャンスがあれば、もう一度委員長をやってもいいかな、と笑う本田さん。「新入生の皆さんには、興味を持ったことには積極的に取り組んでほしいですね」とエールを送っていました。



教えて!先輩! 動画公開中

高校生の皆さんの疑問に、先輩が動画でお答えします。スマホをお持ちの方は、ぜひご覧ください!

ご利用方法
Androidの場合→GooglePlay
iPhoneの場合→App Storeで
「Junaioジュナイオ」を検索してダウンロード

↓

「Junaio」を起動後、画面右上のボタンをタップ。
「チャンネル用QR」をスキャン

↓

QRをスキャンすると、チャンネルのダウンロードが開始されます

↓

本田さんの写真にカメラをかざすと動画が再生

学生は地域のために何ができるか 島根大学で山陰地域学生シンポジウム

総合理工学部棟3号館2階の多目的ホールで2月14日、「学生は地域のために何ができ



るか」をテーマに、山陰地域学

生)が発表。地域の人がかか

した。

生シンポジウムが開かれました。山陰地域ソーシャルラーニング

わり合う空間を自分たちの手で作り上げることが目標に据え、Café×Bar

実行委員長の石川壮志さん(生物資源科学部3年生)は「山陰地域ソーシャルラーニング

事業の活動を振り返り、同事業に参加している島根大学、島根県立大学(浜田、出雲)、同短期大学部、公立鳥取環境大学、鳥取短期大学の5大学の学生が連携し、山陰地域の課題などに取り組みんでいくためのネットワークを構築することが狙いで、各連携校の学生や教職員など約50人が出席しました。

「灯」での活動や平成26年3月に公開された「恋するフォーチュンクッキー島大バージョン」の制作に取り組んだ様子を報告し、「今後は持続可能な組織づくりを目指し、活動を続けたい」と締めくくりました。

「山陰地域ソーシャルラーニング事業に関して良い発表を聞くことができて良かった。地域のことを考えて行動する学生が思っていた以上に多く、驚きを感じた」と話し、「山陰ソーシャルラーニング事業の取り組みはあと2年で終了するので、その後も山陰5大学間での交流・連携を継続させるために学生交流ネットワークを立ち上げたい」と今後の抱負を語っていました。

第1部では、各大学から活動報告が行われ、島根大学からは朝日啓太さん(総合理工学部3年生)と高野結人さん(生物資源科学部3年

生)が発表。地域の人がかかわり合う空間を自分たちの手で作り上げることが目標に据え、Café×Bar

実行委員長の石川壮志さん(生物資源科学部3年生)は「山陰地域ソーシャルラーニング事業に関して良い発表を聞くことができて良かった。地域のことを考えて行動する学生が思っていた以上に多く、驚きを感じた」と話し、「山陰ソーシャルラーニング事業の取り組みはあと2年で終了するので、その後も山陰5大学間での交流・連携を継続させるために学生交流ネットワークを立ち上げたい」と今後の抱負を語っていました。

(学生プレス研究会・平等正裕)

大学生活を楽しむために、新入生向けサークルイベント

入学したばかりの新入生が悩む、サークル選びの助けとなるサークルイベントが4月4、5日に松江キャンパス第1体育館で行われました。各サークルが体育館内にブースを設置。猫の被り物や人気アニメのキャラクター衣装を着るなど、サークルごとに新入生へのアピールをしていました。

両日ともに200人近い新入生が参加し、それぞれが興味のあるブースを見て回り、先輩から活動内容やサークルの雰囲気聞いていました。場内にはステージが設置され、演奏や演技などブース内ではできないパフォーマンスでサークル紹介が行われました。

イベントに参加した新入生の中上和貴さん(生物資源科学部)は「サークル一覧を見た時には部活と同好会の違いがわかりませ

んでしたが、実際に話を聞いて内容の違いを知ることが出来たので良かった」とサークルイベントの



有用性を話し、「今後もこういったイベントを続けて欲しい」と語っていました。

福本頼輝さん(総合理工学部3年生)は「新入生に自分たちが行っている活動を伝える機会が普段あまりなく、会話をした新入生もみんな笑顔で帰ってくれたので、こういったイベントは大事

だと思う」と、サークル側としてもイベントの重要性を強調。「大学に入学してサークル活動をし

ないのはもったいないと思うので、ぜひ新入生の皆さんには早いうちからどこかのサークルに入って大学生活を楽しんでほしい」と新入生へのアドバイスもありました。(学生プレス研究会・金崎智)

荒れた森林を元気にしよう!
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなで
森を守ろう!

山陰合同銀行

島根大学オリジナル芋焼酎
神在の里 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で生産されたサツマイモ「ベニアズマ」を原材料とした「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml) 2本入りセット...3,200円(税込)

島根大学生協同組合
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel.0852-32-6240
http://omise.seikyoku.jp/shimane

印刷テクノロジーで、
世界を変える。

TOPPAN

凸版印刷株式会社 www.toppan.co.jp
松江営業所 〒690-0887 島根県松江市殿町383 山陰中央ビル7F

松江キャンパス

〔新体操・器械体操部〕



和気あいあいとしたチームですが、練習中は真剣なまなざしに

さまざまな経験で
心もしなやかに

男子14人、女子3人の新体操器械体操部。軽やかに演技する姿からは信じられませんが、部員のほとんどがまったくの初心者だったそう。「入部当初は倒立を30秒キープすることもできず、愕然。トレーニングを重ねて少しずつ体つきが変わり、できる技が増えてきました」と部員の藤川舜麗さん（総合理工学部2年生）。今では宙返りや平行棒での倒立などをイキイキとこなしています。



鉄棒、平行棒、床運動などで多彩な技を磨いています

「テクニクとともに、人との接し方や後輩への指導など人間面でも学ぶことが多く、貴重な機会です」と話します。体操を通し、しなやかな心と体が育まれているようです。5月末には国体予選へ出場、8月には中国五大学学生競技大会を控えています。木村さんは「今回は島大が運営を担当します。スキルを上げて臨むとともに、さまざまな面で経験値にしていきたいです」と意気込みを語ってくれました。

出雲キャンパス

〔女子バレーボール部〕



いつも笑顔がたえない陽気な仲間たち

アットホームな仲良しチーム
優勝目指し、練習中!

「フアイト〜」「ナイスコース〜」体育館に元気のいい声がかまっています。部員は新入生から4年生まで14人。経験者ばかりではなく、「大学生活では新しいことにチャレンジしたかった」という初心者まで、一緒に頑張って練習に励んでいます。おしゃべり好きでアットホームなチームは、よく集まって食事会を行うことも。そこでもチーム力アップを図っています。



練習は気合い十分! チーム一丸となって練習中

毎年、1年でもっとも大切な中国医系学生バレーボール大会が行われ、その大会で医学科の4年生と看護学科の3年生が引退となります。一昨年は優勝、昨年は3位でした。「今年は優勝目指して頑張ります! そのために皆で力を合わせて練習をしてきました」と、キャプテンの恩村香澄さん（医学部4年生）の言葉に力が入っていました。

追い上げでプレイオフ進出も、 神話第伍章終幕

島根スサノオマジックの神話第伍章は、全52試合を22勝30敗と西地区10チーム中6位の成績でプレイオフ進出も、プレイオフ1stラウンドで西地区3位の浜松・東三河フェニックスに2連敗と敗れ、幕を閉じました。

振り返ると、全12選手のうち昨季からの継続選手が3人という完全に生まれ変わったチームとして船出をしましたが、リーグ開幕後2戦目には1試合49得点と過去5シーズンで最少得点という不名誉な記録も打ち立ててしまい、開幕11連敗を喫しました。チームは11月19日福島戦で初勝利をあげるも、その日のうちに11連敗の責任からハンソンHCを解任。当時アシスタントコーチであった森山HC代行にチームを託しました。

森山HC代行就任後は、ホーム戦9連勝の記録をうちたて、21勝19敗と勝ち越しに成功し、一時は完全に閉ざされていたプレイオフへ進出。しかし、シーズン西地区3位の浜松の壁は高く、敵地にて敗戦しました。

島根スサノオマジックの神話第六章は2016年秋から始まる新リーグ前最後のbjリーグでのシーズンになります。最後のbjリーグ王者として歴史に名を連ねて、統一新リーグへ参戦すべく、すでに新選手の獲得など、戦いは水面下では始まっています。

県内2カ所で開催される9月のプレシーズンゲームまで試合はありませんが、8月から始まるチーム練習で新チームを見ることができます。またオフの間も県内各所に参りますので、イベント出演などの情報は公式HPをぜひチェックしてください！



▲#4 J・チャップマン選手



▲#1 山本エドワード選手



4月26日シーズン最終戦後の大記念撮影会にて

島根スサノオマジックの
最新情報・試合・チケットなど

島根スサノオマジック

検索

お問い合わせ先

島根スサノオマジック事務局 0852-60-1866 (平日10時~18時)

島根大学支援基金寄附者一覧 ご協力ありがとうございました。

(平成27年2月1日~平成27年4月30日にご寄附いただいた皆さま)
(五十音順・敬称略)

■冠寄附/小林 祥泰 古代出雲文化フォーラムIV in 九州支援基金・古代出雲フォーラム支援

■個人からのご寄附

有田 道彦	岡本 百登成	崎野 潤一郎	難波 英里	安田 彩華
石田 隆康	河村 勝則	佐藤 洋一	波多野 一徳	山本 文和
猪股 則人	北野 達矢	高巢 敏雄	平野 孝史	山本 真
牛川 浩司	木下 芳一	竹永 三男	藤原 直樹	横井 昌治
大國 泰徳	木村 稔	田村 茂	古川 沙希	吉田 恵子
大坪 信一	齋藤 誠	戸澤 潮	楨原 研	

島根大学では学生に対する修学支援及び社会貢献事業を充実させるため、「島根大学支援基金」を募集しています。寄附書はホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。TEL:0852-32-6603(総務課)

ホームページ
http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund_recruit/

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載していません。

投稿の
お願い

『広報しまだい』は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学 広報室
TEL: 0852-32-6603 FAX: 0852-32-6019
E-mail: gad-koho@office.shimane-u.ac.jp
ホームページ: <http://www.shimane-u.ac.jp>

PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工された「イチゴジャム」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/平成27年9月11日必着



編集後記

今年度1,541名の新入生を迎えた島根大学。1年生の皆さんは大学生活、初めての1人暮らし、アルバイトなどに慣れてきた頃でしょうか。私の学生生活はもう数十年前になりますが、大学時代の友人たちは滅多に会うことができない今でも、常にお互いを思い合い、気にかける大切な存在です。新入生の皆さんも誰かの大切な存在となり、有意義なキャンパスライフを過ごして欲しいと願っています。

今号もひろしまフラワーフェスティバルなど、多くの学生たちの活躍をご紹介しました。広報しまだいでは今後も、学生たちのいきいきとした姿や大学の様子などを、松江城国宝指定のニュースに沸き立つ島根より発信してまいります。引き続きご覧頂きますようお願いいたします。



OPEN CAMPUS

2015

松江キャンパス

8/8 土 8/9 日

- 法文学部
- 総合理工学部
- 教育学部
- 生物資源科学部

出雲キャンパス

8/2 日 10/18 日

- 医学部
- 医学部

要事前
予約

未来の「カタチ」を探しに行こう



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学

お問い合わせ先

松江キャンパス

島根大学教育・学生支援機構入学センター
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL.0852-32-6625

出雲キャンパス

島根大学医学部学務課入試担当
〒693-8501 島根県出雲市場治町89-1

TEL.0853-20-2087



◎詳しくは島根大学ホームページをご覧ください。

島大 オープン

検索

《松江キャンパスでは》●学食などの利用が可能です。●駐車場が少ないため、自家用車でのご来場はご遠慮願います。

※悪天候時は、開催の有無をホームページでご確認ください。